




「英文・国際契約締結の チェックポイント」

弁護士 遠藤 衛



相談事例

事例 1

弊社は、日本で食品の製造を行っておりますが、インドから食品原料を輸入しております。この度、インドから輸入した食品に汚染があることが発覚し、税関を通過することができませんでした。支払済み輸入代金の総額は数億円であり、少なくともこの金額については回収したいと考えておりますが、なんとかならないでしょうか。なお、言われるがままに、相手方が手配した契約書にサインしてしまっていますが、どこの裁判所で紛争を解決するかという条項が記載されていませんでした。このような場合、どうすれば良いのでしょうか。

⇒**相手方提供の契約書を言われるがままにサインするのは絶対に避ける**

国際取引における契約書の重要性

1. 信頼関係の欠如/構築の難しさ
2. 物事に対する期待値のギャップ
3. 事実上/法的責任追求の困難
4. 契約に対する文化の違い
 - 1) 日本: 契約に規定されないことも実施
 - 2) 海外: 契約に規定されている限度で実施
5. 裁判所の契約書に対する姿勢
 - 1) 日本: 契約書に書いてないことも積極的に斟酌
 - 2) 海外: 契約書に書いてあることを重視

何かあった場合、契約書の記載(のみ)をもとに交渉されることになる
裁判に訴えられる可能性を持たせることが重要

英文契約書作成の必要性

1. 国際取引で契約書は必須か？ ⇒ No
(ただし、国内取引と比較して紛争に発展する可能性が高いことに留意する必要がある。)

2. 契約作成を検討する上でのファクター
 - a) 契約金額
 - b) 取引の重要性
 - c) 反復継続性
 - d) 損害の発生可能性

相手方フォーマット VS 自社フォーマット

1. 相手方フォーマット

- a) 罣が仕込まれている可能性がある
- b) 契約書全体をレビューしなければならない
- c) 問題がないか、抜けがないかという観点で精査が必要のため時間がかかる
- d) 会社の資産になりにくい

2. 自社フォーマット

- a) 相手方の修正箇所のみ確認すれば良いため、必要な労力が少ない
- b) 適当な雛形を元に一度自社フォーマットを作成すれば継続利用可能
- c) 利用すればするほどブラッシュアップされる

⇒ 自社のフォーマットが有利

英文契約の基本形式 - 1

1. 英文契約の基本形式は以下のとおり

- 1) 契約の導入部
- 2) 契約の前文
- 3) 約因(Consideration)
- 4) 契約の本文
- 5) 契約の結文
- 6) 署名
- 7) 別紙

2. 契約の導入部分

例： This Manufacturing and Supply Agreement (this “**Agreement**”) is made and entered on 15 May, 2021 (the “**Effective Date**”) by and between Purchaser and Manufacturer:

- 契約の当事者についてのみ法的拘束力あり
- 日付はバックデートも通常可能

英文契約の基本形式 - 2

3. 契約の前文

例：

WHEREAS, Purchaser desires Manufacturer to manufacture certain products which Purchaser will purchase and thereafter market, sell and distribute under its own tradename and trademarks;

WHEREAS, Manufacturer has represented to Purchaser that it has sufficient and requisite expertise to manufacture such products;

WHEREAS, Purchaser and Manufacturer desire to enter into an agreement to record the detailed terms and conditions for the manufacture and supply of products;

- 法的な拘束力は原則としてない
- 記載しないことも可

英文契約の基本形式 - 3

4. 約因(Consideration)

例：

NOW THEREFORE, in consideration of the mutual premises and covenants herein, the mutual benefits to be delivered therefrom and other good and valuable consideration, the receipt and sufficiency of which are hereby acknowledged, the Parties hereby agree as follows:

- 約因は英米法由来の契約成立条件
- 形骸化しているのであまり重視する必要はない
- 英米法系の国の法律を準拠法とする場合、片務契約（一方当事者のみが義務を負う契約）については留意が必要
- 不安がある場合、契約本文中で「 In consideration of the business relationship (the sufficiency of which hereby acknowledged)」など記載することを検討

英文契約の基本形式 - 4

5. 契約の本文 – 詳細は後述
6. 契約の結文

例：

IN WITNESS WHEREOF, the Parties by their authorized representatives have signed their names and affixed the seals of the Parties to execute this Agreement on the date first above written.

- 法的拘束力があるわけではなく、実務上はあまり重視されない
7. 署名
 - 金額が大きい契約については署名権限の有無について要確認
 - Witness(証人)の署名が求められるケースあり
 8. 別紙
 - AppendixやAnnexureなど様々な表現あり
 - 契約の一部を構成

英文契約本文の基本構成

1. 英文契約本文の条項は以下の8つに分類可能
 - 1) 定義/Definitions
 - 2) 取引に関する当事者の合意
 - 3) 表明保証/Representations and Warranties
 - 4) 契約期間及び解約/Term and Termination
 - 5) クロージング及び前提条件 /Closing/Conditions
Precedent
 - 6) 特別な義務・禁止事項 (競業避止義務等)
 - 7) 補償 /Indemnification
 - 8) その他条項 /Miscellaneous

定義/Definitions

例 In this Agreement, unless the context otherwise requires, the following words and expressions shall have the following meanings:

(1)“**Invoice**” shall mean, in respect of a particular Purchase Order (as defined below), the statement for payment, as referred to in Article 6, sent by Manufacturer to in connection with Products supplied under that Order.

(2)“**Product**” shall mean the products which are listed in EXHIBIT 1 and are manufactured by Manufacturer according to the Product Specifications (as defined below) provided by Purchaser.

.....

- 問題となる場合は少ないが、相手方フォーマットの場合、定義に義務が規定されているなど落とし穴がないか要確認
- 頭文字が大文字のものについてのみ定義が適用（Productとproductは英文契約書上異なる意味になるので要注意）

取引に関する当事者の合意

例 (1) Manufacturer shall manufacture the Products in strict accordance with the Product Specifications and Manufacturer shall thereafter sell those Products solely to Purchaser. Manufacturer shall not sub-contract any part of the manufacture of the Products to a third party without the prior written consent of Purchaser, in which case Manufacturer shall ensure that all Products manufactured by such third party are manufactured in strict accordance with the Product Specifications.

- **想定している取引と異なるところがないか要確認。**
 - ✓ 相手方に実施を望む事項が過不足なく網羅されているか
 - ✓ 相手方に実施を望む事項が義務の形式で規定されているか (must/shall/be obliged to/will)
 - ✓ 相手方に実施を望む事項が、相手方の同意を必要とする形にする、悪意に限定するなどして骨抜きにされていないか
 - ✓ 支払いのトリガーとなる条件が明確に規定されているか
 - ✓ 想定外の自社の義務が規定されていないか
 - ✓ 独占/非独占(Exclusivity)は大きな問題になり得るので、要確認 (exclusiveというワードで検索)

表明保証/Representations and Warranties

例 : Manufacturer hereby represents and warrants that any and all Products supplied to Purchaser shall:

- (a) be delivered in a timely fashion and as stipulated in Article 4.2 above comply in all respects with the Product Specifications;
- (b) be of good and merchantable quality;
- (c) be free of defects, both detectable and latent, in workmanship and materials;
- (d) conform in all respects with the sample products supplied by Manufacturer to Purchaser pursuant to Article 2.3 above; and
- (e) perform up to the standards and for the period stipulated in Product Specification.

- 表明保証：ある事実が正しく正確であることを保証し、これに反する場合に契約の解除や損害賠償を認めるための条項
- 無過失責任であり、その意味で厳格
- 自社がサービスの提供を受ける側の場合、上記条項例のような形で品質を保証させることも英文契約ドラフト上のテクニックとなりうる
- 自社が表明保証を実施する場合、確証の持てないことや自社のコントロールの及ばない事項の表明保証については削除することが推奨される。

契約期間及び解約/ Term and Termination

例(1) The term of this Agreement shall be one (1) year from the execution of this Agreement. Thereafter, this Agreement shall be extended automatically for successive periods of one (1) year each unless either Party gives the other Party a notice of non-extension at least thirty (30) days prior to the expiration of the original or any extended term of this Agreement subject to all the terms and conditions hereof.

(2) Either Party (hereinafter referred to as the “Non-defaulting Party” in this Article) may immediately terminate the whole or a part of this Agreement without making any demand, if the other Party (herein after referred to as the “Defaulting Party” in this Article) falls within any one of the following items:
(a)...

- いざというときに契約を解除できないと問題が大きいため、理由を問わない解除条項が必要か要検討
- 業務提携に関する契約の場合、特に解除事由について詳細に検討する必要がある

特別な義務（競業避止義務等）

例: During the term of this Agreement and for a period of one (1) year after the expiration or termination of this Agreement for whatever reason, YYY agrees to ensure that it shall not directly or indirectly, whether by itself or through any entity controlled by YYY, its director, employee or shareholder, engage in, become financially interested in, consult with, participate in, or have any connection with any business or venture that is engaged in any activities involving services or products which compete, directly or indirectly, with the services or Products provided or proposed to be provided by XXX or its subsidiaries or affiliates and all business activity reasonably related thereto in which XXX or its affiliate are then engaged anywhere within the Territory without the prior written consent of XXX.

- 代表的なものとして、守秘義務(Confidentiality)、競業避止義務(Non-Competition)、引抜禁止義務(Non-Solicitation)
- 合弁契約など、事業の提携に関する契約については自社の将来の事業制約にならないかという観点からレビュー
- 相手方の競業のみを禁止する場合には、漏れなく幅広く活動が禁止されるかという観点からレビュー
- 競業避止義務については各国で有効性の判断基準が異なる

補償 / Indemnification

例: In the event of a breach by Manufacturer of any of its representations or warranties, Manufacturer shall defend, indemnify and hold harmless Purchaser against any liabilities, damages, losses or costs, including, without limitation, expenses, attorney's fees, judgments and settlement costs, arising directly or indirectly and incurred by Purchaser in connection with any inaccuracy in, or breach of, any of the representations or warranties.

- 過失責任に限定されない点が日本と大きく異なるため、過失に限定されるように修正を実施する必要があるか要検討
- Defendが含まれるか否か要確認
- 対象が相手方または相手方に同視されるものに限定されているか否か要確認
- 補償すべき損害の範囲について要確認
- 損害の上限等が設定されていないか要確認

その他条項 (Miscellaneous)

1. 英文契約における主要なMiscellaneous条項は以下のとおり（一例）

- 1) 完全合意/Entire Agreement
- 2) 分離条項/Severability
- 3) 副本/Counterparts
- 4) 権利不放棄/No Waiver
- 5) 譲渡禁止/No Assignment
- 6) 準拠法及び紛争解決/Governing Law and Dispute Resolution

2. 準拠法

- 紛争解決地国法以外を準拠法とすると裁判での負担が重くなる
- 物品の売買が関連する契約に関しては、準拠法条項においてウィーン売買条約適用の適用は排除する（excluding the United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods などと規定）

3. 紛争解決については要検討

- 費用
 - 執行可能性
 - 自分が訴える側なのか訴えられる側なのか
- } 裁判or仲裁

自社フォーマット/相手方フォーマット別対応方針-1

1. 相手方フォーマット

a) 問題の検出

契約書全体をレビューを実施し、罫が仕込まれていないか、認識と異なる部分がないか検討する。

⇒ 翻訳ソフトにかけて、違和感のある部分について原文を確認するという方法でも最悪ok

また、信頼できる雛形と比較して不足している条項がないか確認する。

b) 問題のある条項を修正する

⇒ 正しい英語ではなく、明確な英語を目指す

⇒ <条項の題名> + sample clause とインターネットで検索すれば類似条項例は出てくるので、これを参照に条項を修正

⇒ 最悪、信頼できる日本語の契約書の類似条項(シンプルなものがベター)を翻訳ソフトにかけて利用

自社フォーマット/相手方フォーマット別対応方針-2

2. 自社フォーマット

a) 自社フォーマットの作成

信頼できる雛形（弁護士作成が望ましい）を元に、自社のフォーマットを作成する

⇒雛形が見つからない場合

<契約書の題名>+SECとインターネットで検索する（上級者向け）

b) 問題のある条項を修正する

⇒正しい英語ではなく、明確な英語を目指す

⇒<条項の題名>+sample clauseとインターネットで検索すれば類似条項例は出てくるので、これを参照に条項を修正

⇒最悪、信頼できる日本語の契約書雛形の類似条項（シンプルなものの方がベター）を翻訳ソフトにかけて利用

よくある質問

Q1. 英文契約では、義務を表すのに色々な表現が使われるが、差異はあるのか（must/shall や be liable for/ be responsible for など）

⇒ 原則差異は無いが、補償条項の“defend”及び紛争解決条項の“arising out of or in connection with this Agreement”については米国の判例上異なる取り扱いがあるとされている。

Q2. 準拠法が相手方所在国の場合、その国の法令に適合する観点から契約レビューを実施する必要があるのか。

⇒ 契約条項の執行可能性（enforceability）はその国の法令によって異なるため、原則準拠法に適合するかという観点からのレビューを実施することが望ましいが、現実的には費用や所要時間との兼ね合いで省略されることもある（ただし、損害賠償の予定、競業避止、販売店契約については要注意）。

国際法務機能
サブスクリプション型アウトソーシング
ご案内

国際法務機能サブスクリプションサービス概要

A. 契約審査対応

- 各国法人の事業モデルを前提に、必要となる典型契約類型を特定
- 典型契約類型に関して、現地法令に適合する契約雛形を整備(月1通を上限)
- 契約雛形の利用を前提に、契約条項案の提供について**無制限対応**

B. 労務対応

- 現地法令を前提に、雇用契約書・就業規則等の雛形を整備(月1通を上限)
- メール対応を前提に、労務一般に関する質問について**無制限対応**
- 法改正等必要な事項について担当者に適宜アップデート

C. 法定規則の整備

- 現地法人の事業情報を前提に、法律上整備することが必要な社内規則やガイドラインを整備(月1通を上限)
- 整備されたガイドラインの運用支援
- 社内規則を法改正に応じてアップデートし、修正について**無制限対応**

サブスクリプションモデルにより対応!!

※対応国：日本・インド・シンガポール・タイ

※※ 費用は想定業務量に応じて5万円より応相談

お問い合わせは、mamoru.endo@chadha-co.com までお願いします。